

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891900033		
法人名	社会福祉法人 栄宏福祉会		
事業所名	ザルーフホーム こもれび		
所在地	兵庫県小野市久保木町字出晴1561-24		
自己評価作成日	令和6年10月1日	評価結果市町村受理日	令和6年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センタ－ページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

<http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県加古川市加古川町稲屋177-10
訪問調査日	令和6年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】
「住み慣れた地域で共に楽しく生きる」という理念のもとに、利用者様と共に職員も楽しめるような取り組みを行っています。穏やかな日々の生活に、個別ケアそして定期的に開催される季節のイベントが特徴です。面会についても、居室での面会が可能です。新型コロナウイルス感染症も5類に分類されるようになるも高齢者が感染すると命にかかわる病気ではあることは変わらないので、引き続き感染予防への意識付けは継続しています。家族様に施設内での日々の様子を見て頂けるように、通信、ブログ、インスタグラム等、個人情報に配慮しながら活用しています。キーパーソンだけでなく、御兄弟、お孫様まで見て頂くことができて好評を得ています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】同法人各委員会(安全対策委員会、気づき・アクション委員会等)を設置し活発に活動している。夜勤体制に関する取り組みとして「応援介護福祉士体制」など職員の働きやすさ及び負担軽減策を講じている。
【工夫点】①月2回、職員への研修会を年間研修計画をもとに実施している。感染対策やBCPをテーマに約30名の参加で開催している。②年1回スウェーデンを実施している。人事考課に関する取り組みでは面談を行い個々の目標など聞き取り実現にむけ支援している。③ユニット会議を毎月開催し日々のケア課題等について検討し実践に活用している。④SNSを取り入れ利用者様の様子などを公表している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の2/3くらい 2. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やザルーフホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:1,11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己評価 第三者	項目	自己評価	実践状況	外部評価
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1. 理念に基づく運営			
1	(1) 〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員間で共有し、入所時のオリエンテーションで説明を、朝礼で復唱、勉強会での理念の共有を図っています。日々のケアにも活かせるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、職員間で共有し、入所時のオリエンテーションで説明したり又朝礼で復唱や月2回の勉強会で共有を図り実践につなげている。	
2	(2) 〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以降、自治会への参加、行事を通して交流は少なくなりましたが、少しずつ形を変えつつ戻していければと考えています。トラヤルウイークの再開、近隣の中学生のオンライン大会の応援や、小野でオンラインの応援に参加して地域のランナーと掛け合いなど素敵な交流ができている。 コロナ以降介護教室等で出向くことは減りましたが、今後要望があれば再開していきたい。コロナの中で始まった新しい社協の取り組みで地域の高齢者を対象とした買い物ツアーの開催において車向と運転を当法人が担当し地域の方に喜ばれている。昨年同様、地域の高校へ非常勤講師として認知症の授業を行ったり、小野市が主催している介護入門研修に講師として参加している。	地域の一員として日常的な交流ではコロナ以降、自治会への参加や行事を通して交流は少なくなりましたがトラヤルウイークの再開や近隣の中学生のオンライン大会の応援、運営推進会議に参加などとして地域の一員として日常的に交流している。	
3	〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3) 〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、市、社協の職員、民生委員、地域住民代表、家族会代表者、職員とで構成し、報告や意見交換をし、サービスに反映できるようにしている。	2か月に1回運営推進会議を開催して、社協の職員、民生委員、地域住民代表、家族会代表者、職員の参加を得て利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行いそこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で気づき・アクションアイテムの詳細な報告を実施している。加えて事故数はヒアリング数はの表を作成し玄関等に掲載し安全重視の事業所を示す活動が望まれる。
5	(4) 〇市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の報酬改定等において不明な点があれば電話や直接市に出向いて相談したりまた意見交換を行っている。また運営推進会議での報告に對しても市の職員さんからの提案など頂きながら協力関係を築いている。数年前から地域密着事業所連絡会として行政の方にも参加して頂き実施していました。ここ数年(コロナ禍以降、人員不足も重なり活動ができていない)。	介護保険の報酬改定等において不明な点があれば電話や直接市に出向いて相談したりまた意見交換を行っている。また運営推進会議での報告に對しても市の職員さんからの提案など頂きながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5) 〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外鍵を掛けない。身体拘束廃止委員会により毎月1回の会議により現状報告及び改善に向けての取組がなされています。年に2回以上身体拘束廃止に向けての勉強会を実施しています。	玄関は夜間以外鍵を掛けず毎月1回の身体拘束廃止委員会を開催し現状報告及び改善に向け取組み身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	(6) 〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	権利擁護・虐待防止のための指針を掲げ、事業所内での接遇・権利擁護の勉強会、職員のストレスをためないように言葉や交わしたり、意見交換を行っている。行き過ぎた言葉にも注意を払い、お互いに注意し合えるようにしている。3年程度前より職員のストレスチェックを実施している。	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち権利擁護・虐待防止のための指針を掲げ勉強会を実施したりして意見交換を行い虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努め数年前より年1回職員のストレスチェックを実施し防止に務めている。	

自己 者三	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者と職員は権利擁護に関する勉強会は年2回実施、日常生活自立支援事業や成年後見制度についてパンフレットを設置している。	管理者と職員は権利擁護に関する勉強会は年2回実施し日常生活自立支援事業や成年後見制度についてはパンフレットを設置し又看取り対応をも可能としている。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前からご家族のご要望、相談、疑問等について十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進め、個別の配慮や取組をしている。また料金改定等があれば書面と口頭による説明に上同意を頂くとしている。	契約の締結・解約又はや改定等の際は、入居契約前からご家族のご要望、相談、疑問等について十分な説明を行い、納得を得た上で手続きを進め理解・納得を図っている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの意見、要望を引き出すため、意見箱の設置している。年2回の家族会ここ数年コロナ感染流行により、できておらず、また運営推進会議は書面開催が多くなり、直接ご意見を聞く機会は少なくなっているが、面会時直接聞いかれたり、またケアプランの更新に合わせて書面で家族から要望・ご意見を伺って書面に改善に反映させている。	利用者やご家族からの意見、要望を引き出すため、意見箱の設置し面会時直接聞いかれたり、またケアプランの更新に合わせて書面で家族から要望・ご意見を伺いサービス改善に反映させている。	ご意見箱に代わってご相談等への丁寧な対応を期待いたします。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議、介護リーダー会議、連携会議などをする事で、職員の声に耳を傾け、働く意欲の向上に努めている。できるだけ職員とは話しやすい関係作りを心がけている。	月一回のユニット会議、介護リーダー会議、連携会議を実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設けそれらを反映させている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の人事考課を作成し、自己評価、上司・管理者評価をしており、適宜面接もしている。また今後の個人目標等も聞きながら支援できるような配慮に努めている。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識しており、すべてできるように、事業所内外研修への参加ができる仕組みを持ち、働きながら学ぶことを進めている。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小野市の「地域密着型事業所連絡会」及び地域の事業所による「小野 地域と福祉をつなぐ会」地域の問題への取り組み、地域のお祭り等に参加、意見交換、交流を図っている。			

自己 第3者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
互心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	本人との関係づくりを大切に、まずは本人の声に耳を傾けながら、気持ちを受け止め、家族からも生活歴を含め情報を頂き、安心した生活が送れるように信頼関係の構築に努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	まず初回カンファレンスにてご家族の意向を踏まえた上で、ご家族の相談や要望があれば受け止め、またサービス開始後も適宜施設での様子を報告し信頼関係の構築に努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービスの利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の事情や要望のもと、その時点で何が必要か見極め、できる限りの対応に努めている。また事業所だけで抱え込まず、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と時間をかけて関わっていく中で、より深く本人を知ることが出来、共に過ごすことでより安心感と安定感を持って頂けるように努めている。			
19	○本人を支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の支援者であり、これまでの両者の関係性を築いて頂けるための支援者に努めている。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい面はあるが、可能な限り、知人、友人、商店街、行きつけの場所(スーパー、美容院)へ出かけたり、来てもらったりして人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また思いでの場所にでかけたり個別ケアに力をいれている。	本人がこれまで培ってきた社会との関係を把握し日々の暮らしの出来事や気づきの情報など職員間で常に共有しながら支援している。コロナ禍の制限も緩和され外出も再開している。お墓参りや四十九日の法要に帰宅されることもあり。継続的な交流ができるように働きかけている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話できるようにリビングで過ごす時間を大切に、共に暮らしを支え合い、楽しめるような支援に努めている。特に人間関係については配慮を心かけている。			

自己 第三	項 目	自己評価		
		実践状況	実践状況	外部評価
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家 族の経過をつフォローし、相談や支援に努めてい る	転居される場合でも、転居先の関係者に対して、 本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫 等の情報を詳しく伝え、その後も相談を受け付け ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	入所前までの生活歴を参考に、利用者の思いや 意向の把握に努め、その人らしく暮らし続けること の出来るように努めている。困難な場合は、ア セスメントや会話や様子、家族の意見を参考に、関 係者が本人の視点にたつて、意見を出し合いケア の内容を決定している。	個別に話を聴いたり、みんなで楽しく過ごせ る場面づくりを職員も一緒にやり取り組んで いる日々の関わりの中で声を掛け、どのよう に暮らしたいか、何をしたいかを理解するた め職員は本人の視点にたつて話し合っている。 意思疎通が困難な方にはご家族から情	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	入所時には、本人・家族から聞き取りをしていま す。職員と馴染の関係を築きながら、これまでの 暮らしの把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中からも本人の、現状把握に努 め、したいこと、できることがあれば行っ頂き役 割をもって有意義な生活を送って頂け様な支援を 行う。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	担当者会議での担当者の意見、ご家族の意見や 要望を踏まえ介護計画を作成している。ユニット会 議などで気づきやアイデアを出し合いながら計 画書を見直し、モニタリングを行っている。適宜ミ ニカンプレンスも行い柔軟に対応している。	介護計画は、本人や家族の意向をもとに関 係者で話し合い取り組んでいる。3か月に1回 モニタリングを実施し状況の変化に基づき柔 軟かつ臨機応変な対応で行っている。「口か ら食べられるように」の要望など栄養士や看護 師が参加したカンプレンスで専門職の意見 を反映し作成している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しな がら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人を身近で支える職員しか知り得ない事実やケ アでの気づきを個別に記録し、その記録を根拠に しながら、介護計画の見直しに生かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニー ズに対応して、既存のサービスに捉われない、 柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組ん でいる	生活の場として利用者のニーズに対応し、柔軟な 対応、臨機応変な対応ができるように支援体制が 持てるように取り組んでいる。		

自己 第 三 者	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を前向きに支援している。排泄パターンや習慣を把握し、トイレ誘導や見守りを行い、自立に向けた支援をしている。	ひとり一人の排泄が困難な要因を丁寧に検討し習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。日々の変化や気になる点など「申し送り書」を活用し都度書きとめていく、変更点など重要事項については日誌にまとめ職員間で共有を図っている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を記録に残し、一人ひとりに応じた自然排泄を促すため散歩、運動などの工夫をしている。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミソングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ、一人ひとりの希望やタイミソングを含ませ、利用者に無理強いすることなく、意向に沿いながら、拒否があれば時間を変えたり、翌日にするなどして入浴できるように支援している。	本人のこれまでの習慣や希望に合わせて週2回入浴できるようにしている。午前中2名の利用者に入っていた。入浴を拒む方には、言葉がけや対応の工夫でその方に合う入浴支援を試みている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人にとっての自然なリズムを大切に生活習慣や活動状況、ストレスの状況を把握し安心して気持ち良く、休憩したり、よく眠れるように努めている。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や薬の情報提供など確認できるようにしており、目的、副作用、用量の理解を深めるようにしている。また、本人の状態経過や変化等に関する日常記録は、医療関係者に情報提供している。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味に合わせ、一人ひとりにあつた役割や楽しみ、気分転換を支援している。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意欲や自立を保つために、本人の思いに沿って、行きたい場所への外出支援を行うように努めている。コロナ感染症も5類になって以降は、家族とので外出も認めている。	コスモスや秋の紅葉などドライブを計画する予定です。外食が難しいためドライブアウトなど取り入れている。午後からはDVDで体操をしたり紙芝居などおこないます。気分転換を図るために職員と一緒に周辺を散歩することもあります。一人ひとりが楽しめるよう戸外へ出る機会が持てるよう努めている。		

自己 第三	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月1回パンを売りに来ているので、好きなものを選んで購入する機会を設けている。利用者の希望で必要なもの、欲しいものがあれば買い物企画として職員付き添いで買い物で出かける。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば固定電話の通話や、携帯電話を持っておられる方もあり、自由に使用されている。手紙のやり取りもできるように支援している。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、利用者にとって居心地の良い場所作りを努めている。また季節感も大事にしている。	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は利用者にとって居心地の良い場所作りを努め季節感も大事にしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で使用していた家具や小物などを持ってきてもらい、お部屋内のレイアウトも希望に沿って行っている。	ご利用者の個室は自室で使用していた家具や小物などを持ってきてもらい、部屋のレイアウトも希望に沿って行っている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体機能の状態に合わせた危険防止や自分の力を活かして動けることを支えるための環境づくりに心がけている。			